

「子どもかがやきプラン」から次のステージへ

新 子どもかがやきプラン

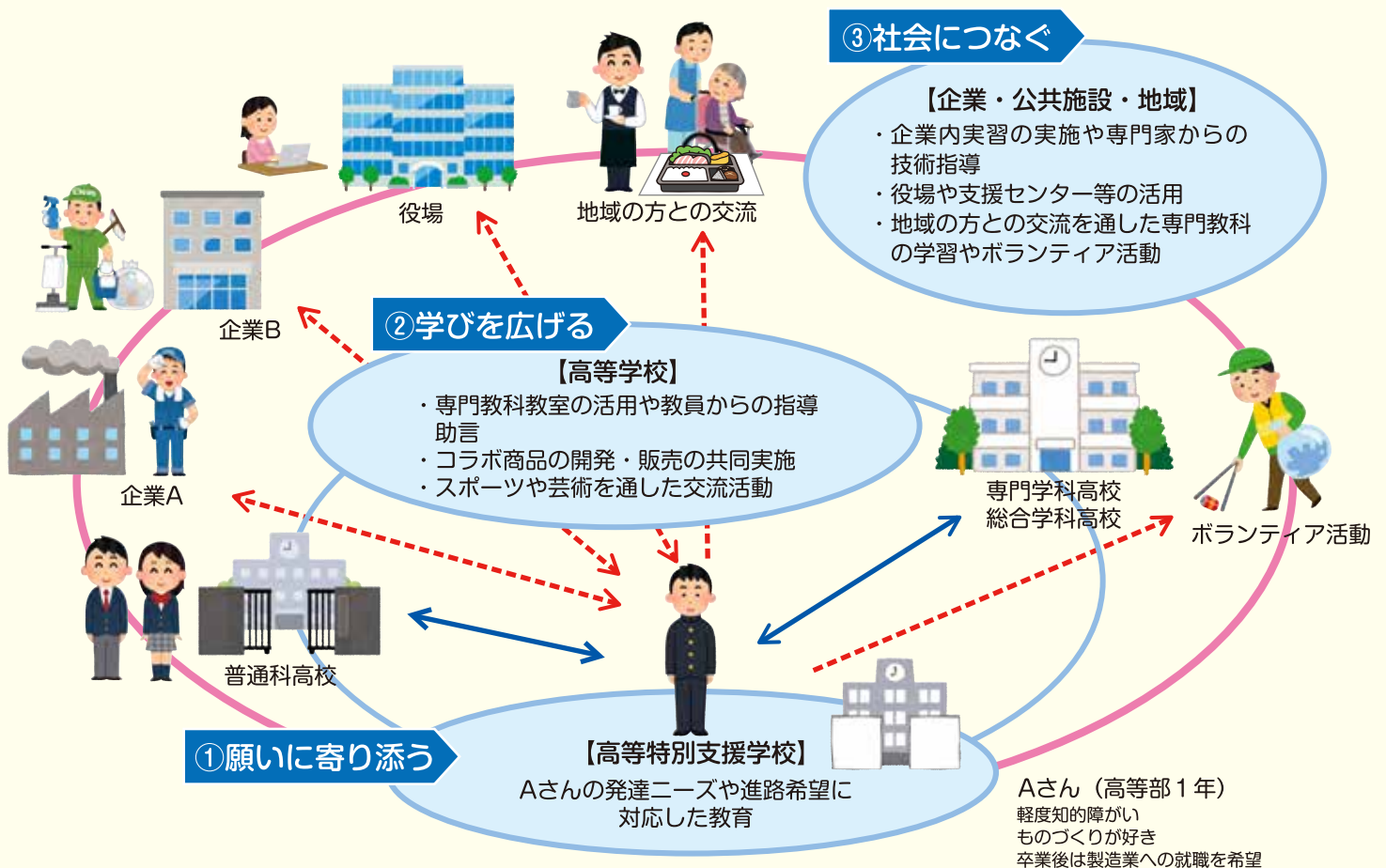
地域と共に創る 新たな学びのスタイル



- インクルーシブ教育システムの構築に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じて、地域の多様な学びの場を柔軟に活用できる新たな「学びのスタイル」づくりに取り組みます。
- そのための基盤となる、新たな「学びの場」の整備に取り組みます。

目指す学びのスタイル

◆ 高等特別支援学校に通うAさんの例



取組1 県内各地域へ高等特別支援学校機能を整備します



岐阜以外の地域においても、平成30年度から順次、高等特別支援学校（総合産業科）の機能を整備します。

軽度知的障がいのある生徒を対象に、一般企業等への就労を目指して職業教育を中心に行う新しいタイプの学校「高等特別支援学校」を、県内各地域に整備

高等特別支援学校機能の整備と合わせて、特別支援学校高等部において新たな作業コースを開発するなど、作業学習の在り方を検討

取組2 発達障がい等のある児童生徒への支援を強化します



児童生徒一人一人の特性やニーズに応じた教育を提供するために、新たな学びの場の整備やそれぞれの学びの場をつなぐ仕組みづくりに取り組みます。

中学校において、発達障がい等のため学習や生活において困難さのある生徒を対象に、1～3人程度の集団で行う「個別支援教室」の導入について研究を実施

高等学校において、他の生徒と適切にかかわるためのルールを身に付けたり、自分の思いを積極的に表現する力を高めたりするため、「少人数コミュニケーション講座」を導入

特別な支援を必要とするすべての児童生徒を対象に、個別の教育支援計画、個別の指導計画^(※)を作成し、それらを小学校から中学校、中学校から高等学校、そして卒業後の進路先へと確実に引き継ぐシステムを構築

高等学校へ進学する段階において、適切な進路情報を提供し、教育相談を通じてニーズに応じた進路先を選択できるような仕組みを構築

障がいのある生徒が県立高等学校への進学を希望する場合は、受検や学校生活において必要となる合理的な配慮を、事前協議を踏まえて提供

すべての県立特別支援学校にコミュニティ・スクール制度を導入し、地域と一体となった学校づくりを推進

※「個別の教育支援計画」は家庭や地域、関係機関等との連携のもと、長期的な視点で教育支援を行うための計画のこと。「個別の指導計画」は教科等の指導目標や指導内容・方法を盛り込んだきめ細かい計画のこと。

取組3 学びの場を支える教員の専門性を向上します



それぞれの学びの場において、児童生徒の障がいの特性や状態に応じて、適切な指導支援を行うことができるよう、教員の専門性を高めます。

コア・スクール^(※)において、各障がい種の専門領域に関する指導的立場の教員（コア・ティーチャー）を計画的・継続的に養成

小・中学校、高等学校において、発達障がい支援のコア・ティーチャーを養成

※コア・スクール：岐阜盲学校、岐阜聾学校、長良特別支援学校、岐阜希望が丘特別支援学校、岐阜清流高等特別支援学校の5校